

## 令和3年度 久留米市文化芸術振興審議会 第1回会議（要旨）

### 1 開催日時

令和3年11月25日（木）10時～11時40分

### 2 会場

久留米市美術館 本館1階多目的ルーム1

### 3 出席委員（50音順） ※10名

井原委員、上田委員、内野委員（副会長）、翁委員、片山委員、木藤委員（会長）、曾山委員、中園委員、西依委員

### 4 欠席委員 ※2名

前原委員、矢次委員

### 5 事務局 ※11名

市民文化部 竹村部長、深堀次長

文化振興課 土居課長、中山課長補佐、中園主任主事

久留米シティプラザ事業制作課 平木課長

久留米シティプラザ総務課 末次課長補佐

文化財保護課 丸林課長補佐

市民文化部総務 辻森主任主事

公益財団法人久留米文化振興会 企画営業課 隈課長補佐

総務課 上野係長

### 6 議事次第

#### 1 開会

#### 2 委員紹介

#### 3 会長、副会長選任

#### 4 会長、副会長挨拶

#### 5 議題

（1）久留米市文化芸術振興基本計画における各事業の実績及び計画について

（2）久留米市文化芸術振興基本計画の総括目標に対する進捗状況の確認について

#### 6 その他

#### 7 閉会

## 議事録

### 1 開会

- 事務局より、過半数の委員が出席しており、会議が成立していることを報告。

### 2 委員紹介

- 各委員を紹介。(前原委員、矢次委員は欠席)  
事務局(久留米市及び(公財)久留米文化振興会の担当者)を紹介。

### 3 会長、副会長選任

- 会長に木藤委員、副会長に内野委員を選出。

### 4 会長、副会長挨拶

- 木藤会長及び内野副会長より挨拶。

### 5 議題

#### (1) 久留米市文化芸術振興基本計画における各事業の実績及び計画について

- 事務局より資料1、2に基づき、久留米市文化芸術振興基本計画における各事業について、令和2年度の実績及び令和3年度の計画を説明。

## 質疑

### ○ 内野副会長

- ・ 芸術家派遣事業で、コーディネーターは必要なのか。何かしたいという芸術家が直接、学校に行くことはできないか。また、コロナ禍の中で、市民が施設を借りる際の減免など、市の支援はあったのか。

### ● 事務局

- ・ 芸術家派遣事業は、まず学校にどのようなジャンルの体験等を希望するか調査し、コーディネーターが学校と日程調整した上で、芸術家を派遣する形をとっており、意欲のある芸術家を直接学校につなぐという形にはなっていない。
- ・ 施設の減免はないが、シティプラザにおいては、使用料の設定において、非営利活動、いわゆる市民利用の場合には、営利活動、いわゆる民間興行等の場合と比較して、1/2の使用料としている。

### ○ 曾山委員

- ・ シティプラザについて、年間の稼働率はどうだったのか。また、コロナの影響をふまえた、令和4年度以降の目標、見通しなどあれば聞きたい。また、久留米市美術館について、コレクション収集の流れはどのようになっているのか。

### ● 事務局

- ・ シティプラザの令和2年度稼働率については、ザ・グランドホールが40.1%と、令和元年度の86.4%の半分以下となった。その他のホールについても半減。会議室は、令和2年度が75.7%で、令和元年度の88.8%から十数%低下した。

- ・ 久留米市美術館で活用するコレクションは、市と美術館で購入・寄贈候補作品の情報を集め、市の収集方針に沿った作品に絞ったリストを作成し、収集委員会に購入の妥当性、寄贈作品の評価額の妥当性について審議いただいている。作品の情報は画廊やコレクターなどから不定期に寄せられるため、毎年度の収集点数は変わってくる。
- 翁委員
  - ・ 事業が中止、延期、縮小となった際の基準などあったのか確認したい。また、市民の事業への参加も少なくなった中で、紙媒体のほか、市HPでの呼びかけなどの、さらなる広報が必要となっていると感じる。
- 事務局
  - ・ コロナ禍における事業の中止、実施の判断は、不特定多数の参加者が見込まれ、その特定が困難なものについては中止としたが、参加者が特定でき、感染症対策が十分に行えるもので、中止することによって損害賠償に発展するような可能性のあるものは実施した。また、コロナ禍における紙媒体の使用は、事業中止等により無駄になるケースが想定されたため、SNSによる情報発信が中心となっている。
- 片山委員
  - ・ 基本計画の総括目標に掲げる、市民の文化芸術の鑑賞率の達成について、シティプラザの役割は大きい。令和4年度に向け、提携事業を年間何本予定しているとか、興行事業の需要がなければ自主事業でカバーするとか、色々な考えがあると思うが、現時点でどのように考えているのか。
- 事務局
  - ・ シティプラザでは、大型の提携事業の他にも、市民利用やMICEなどもある。令和4年度の事業については、自主事業、提携事業を含め、演劇や音楽など様々なジャンルの事業をバランスよく計画しているところである。提携事業は、月1本のペースで実施する計画にしている。コロナ禍の中でも何とか市民に文化芸術に触れてほしいとの思いから、ZOOMやWebを活用した事業を展開しており、それらの手法は今後も検討を続けたいと考えている。
- 井原委員
  - ・ 久留米市は実に幅広い文化芸術事業をされている。コロナの影響で事業の中止等はやむを得ないが、そんな中でも令和4年度の予算は、令和3年度とほぼ同額の予算が確保されている。久留米は近年の豪雨災害の復旧も大変だと思うが、文化芸術もやはり忘れてはならないと思う。本物の文化芸術を市民に見てもらえるよう、今後も予算確保をしてもらいたい。シティプラザの事業も、地域に根差した事業は特に大事だと思う。プラザの2,3年後を見通した、例えばアクロス福岡など他施設と連携した企画などを、ぜひ検討してほしい。一つの施設では予算確保が難しいものも、できる可能性が広がると思う。令和4年度に向けての計画がすでに検討されていると思うが、もっと先を見越した企画もぜひ検討してもらいたい。
- 事務局
  - ・ ご意見のとおり、災害があった後、文化芸術が市民の心のつながりの回復に果たす役割などは、今後も必要とされてくると考えている。来年度以降の予算確保に尽力していきたい。
- 中園委員
  - ・ 令和2年は文化芸術のイベント等はのきなみ中止となるなど、コロナに振り回された一年だ

った。令和3年度は、各施設などの現場でなんとか事業を実施できないかと模索し、その成果が少しずつ出てきた年だったと思う。その成果を共有しながら、今後の事業実施につなげてほしい。また、新しい様式に沿ったやり方には、費用もかかってくると思う。

○ 西依委員

- ・ 市内の中学校1年生が久留米市美術館に鑑賞に行く事業は、とてもいい取り組みだと思う。昨年の中学校1年生が団体鑑賞できなかったのは残念だが、子どもが色々な文化芸術を体験できるよう、動画配信なども引き続き検討してもらいたい。コロナ禍の中でも、文化センターのコンサート動画などを、色々と観られるようになったのはよかったと思う。

● 事務局

- ・ SNSの普及が進み、文化センターではバラの育て方の動画、久留米市美術館ではコレクション紹介動画などを発信している。狭いエリアにしか発信できなかった情報が、事業を知らなかった遠方の人にも発信できるようになったのは、いい成果だと思っている。

(2) 久留米市文化芸術振興基本計画の総括目標に対する進捗状況の確認について

- 事務局より資料3に基づき、令和2年度の市民アンケートモニター「くるモニ」の調査結果について説明。

質疑

○ 片山委員

- ・ コロナの影響があった中でくるモニの結果は、参考にしづらい。外出自粛があったのに、市内での鑑賞・活動が79.9%となっているのは、どう読めばよいのか。

● 事務局

- ・ 79.9%以外の方は、市外で鑑賞・活動したと読むことができると思う。久留米市が緊急事態宣言中に、近隣の鳥栖市などで鑑賞・活動した市民もいた、ということも考えられる。

○ 翁委員

- ・ 報告書の中にある、映画鑑賞をした人の内訳など、数年分の推移も見られたらよいと思う。自粛中は映画鑑賞が伸びた、などと分かるようになると思う。

● 事務局

- ・ 結果の詳細についても確認できるよう、検討したい。

○ 内野委員

- ・ 総括目標の数値の裏付けは、どのようなものだったか。

● 事務局

- ・ 現計画の前の、第2期の計画の結果を総合的に見て、設定したものである。
- ・ 事務局としては、次回のくるモニの設問について見直しが必要と考えている。特にこれまで「最近1年間に鑑賞したものはありますか。(TV、CD、DVD、インターネットなど自宅での鑑賞を除きます。)」としていた設問については、自宅鑑賞を除くということが一般的なライフスタイルに合わなくなっていると考えている。次回の会議では、今の時代に沿った検証の仕方について、ご意見をいただきたい。

6 その他

- 次回の審議会開催に係る日程調整について連絡

7 閉会

- 木藤会長
  - ・ 閉会の挨拶

以上